

平成30年度 第15回
柏原市子ども・子育て会議
議事録

日時：平成31年3月14日（木）10時～12時10分

場所：フローラルセンター 会議室

参加者：

谷向 みつえ（関西福祉科学大学社会福祉学部教授）
小松 孝至（大阪教育大学教育学部准教授）
柴田 裕紀子（柏原市放課後児童会連絡会代表）
住本 和弥（柏原市労働組合協議会代表）
田中 昌之（柏原市私立幼稚園代表 第二白鳩幼稚園園長）
西 育代（主任児童委員）
藤井 謙昌（柏原市民間保育園協議会代表 みずほ保育園園長）
二葉 義広（柏原市市民代表）

(事務局)

北西課長（健康福祉部こども政策課）
松本課長補佐（健康福祉部こども政策課）
石橋課長（健康福祉部こども育成課）
巽 課長補佐（健康福祉部こども育成課）
兼嶋主査（健康福祉部こども政策課子育て支援係）

(欠席)

上村 明子（柏原市PTA協議会母親部会会長）
西村 龍夫（柏原市医師会代表）
横山 真貴子（奈良教育大学教授）

議事次第

1. 開会

2. 開会のあいさつ

3. 会長あいさつ

4. 議事

- (1) 柏原市子ども・子育て支援事業計画（第2期）策定のためのアンケート調査結果について
- (2) 教育・保育、地域子ども・子育て支援事業の量の見込みの算出結果について
- (3) 放課後児童会の時間延長について
- (4) 連絡事項
- (5) その他

5. 閉会

1. 開会

2. 開会のあいさつ

北西課長

3. 会長あいさつ

谷向会長

4. 議事

(1) 柏原市子ども・子育て支援事業計画（第2期）策定のためのアンケート調査結果について

【谷向会長】

それでは、次第に従いまして、案件の説明を受けたいと思います。

【事務局】

（資料確認）

資料1. 子ども・子育て会議委員名簿

資料2. 柏原市子育て支援事業計画（第2期）策定のためのアンケート調査結果
（就学前児童：単純集計表）

資料3. 柏原市子育て支援事業計画（第2期）策定のためのアンケート調査結果
（小学生児童：単純集計表）

資料4. 教育・保育、地域子ども・子育て支援事業の量の見込みの算出結果

資料5. 放課後児童会の時間延長について

【事務局】

まず、アンケートの調査結果を説明いたします。

—資料に基づき説明—

【谷向会長】

ひとまずここでご意見、ご質問を頂けたらと思います。

まず5年間で確実に子どもの数が減っているかはこの調査ではわからないのですか。

【事務局】

この調査では子どもの数が減っている等はわかりません。量の見込みの算出データの資料の4頁に人口の推移の推計が出ていますが、減っている傾向にあります。

【谷向会長】

確実にフルタイムで働いているお母さんが増えて、保育所のニーズが高まっている事がうかがえますが、現場ではいかがでしょうか。

【藤井委員】

平成31年度の募集状況では0歳児を預ける人は減っている傾向にあると思います。園児数にさほど変動はないのですが、何となく子どもが減っているのは否めないと思います。

【小松副会長】

私が説明を聞いていて興味を持ったのは、相談できる人や支えてくれる人の割合で、近所の人の割合が減っているところです。幼稚園や保育所の先生が増えているわけではない。お仕事をしている家族の方が増えていることが背景にあると思うのですが、周りの人とやり取りしながら子育てしていく環境が減ってきているように思います。誰かから支えられているかについても、「近所の人」という回答は前回51.5%だったのが今回は40.7%になっています。

問38の「どんな支援をしてほしいか」では、仕事と家庭生活の両立ができる、教育環境の充実というところが出ています。いろいろ近所の人達と関わりながら地域の中で子育てをするというより、ある種個人の問題、個人の課題だというような考え方や社会になっているのかなど。だから、自分が何とかする、自分が環境を整えてもらってやっていくというような雰囲気が強まってきているのかなあと感じます。

それに対して行政への要望が強くなっているかということ、はっきりと「これをやってほしい」とか「5年間でこういうものがいい」というような要望は見つけられません。そういう意味では個々のご家族が個々に子育てをするということになるのかなと思います。

それからもう一つ興味深かったのは、最後の「特に誰から支えられているか」では「かかりつけの医師」が33%で、お医者さんというのは他の行政でもすごく高くて、小さいお子さんがいる方にお医者さんがもっと対応してあげたらどうかは重要なことだと思いました。

【二葉委員】

わかれば教えていただきたいのですが、前回の調査と今回の調査をする中で、世帯数もそうだと思うのですが、柏原市の子ども数が減ってきているのではないのでしょうか。これは全国的な傾向もあると思うのですが、今回の調査をされた事務局として、今入手している日本の統計データの情報があれば教えていただきたい。今出ているものと近年のものとを比べて、柏原市の傾向と同じであるのかそうでないのかということを確認しておきたいので。

【事務局】

今、全国一斉にこのアンケートをやっています。今、どこの市も集計されているので、公表される場所があれば見てみたいと思います。どこかの市から出てくれば、また提供したいと思います。

【二葉委員】

日本は労働力不足で外国の人を頼るような状況になってきています。常に成長を目指しているからそうなるのかと思うのですが、今の日本で、女性も子どもを育てながら働かなければいけない状況の中で、行政の重要な位置づけというのはあると思います。子どもはできるだけ3歳から5歳までにきちっと人間形成できるように育てるのはいいと思いますが、片や労働環境からいうと、行政だけではなくて日本全体、企業も含めて取り組まないと難しい。調査はするがなかなか実効性のある方法がみつけれないというのが実態ではないのでしょうか。そのためには、個々が自分の家庭を守る、自分達の家族が結束してやっていくという傾向になってきているのではないかと、この調査結果を聞いて実感しています。

【谷向会長】

前回もこの質問が出たように思うのですが、全国の統計はあるのですか。

【事務局】

大阪府も探したのですが、出てこなかったのが今回の結果がわかれば集めていきたいと思います。

【谷向会長】

厚生労働省が手元に集めているものが出ていないんですね。

【事務局】

前回の結果は5年経っているのもう消えてしまっているかわからないのですが、探してみたのですがわかりませんでした。改めて探してみます。

【西委員】

子育て支援をしていて、今のお母さん達が何を望んでいるのかが、日々感じることです。0歳児のお母さん達は子育てのことよりもこれからどこに子どもを預けるかというお話をされています。子どものことよりも自分達の今後のことをよくお話されている、というのが一つ。あと、1歳2歳から働きに出るということは、子育て支援に遊びに来てくれる2歳3歳の子ども達が少なくなって、0歳児の子育て支援を受け入れなければならなくなってきているということです。2歳～4歳であれば、ものを作ったり遊んだりできるのですが、寝がえりをうったぐらいの子ども達に対して「どうしよう」と。地域なので、お母さん達が出てこられる場を作ってあげるのがいいのか、子ども達に何かをしてあげたほうがいいのか。今は考えが変わってきているところなんです。お母さん達に何かをしてあげると「ここはこれをしてくれる所だ」といいほうに考えてくれたらよいのですが、自分達にニーズがないと来なくなる。私達は「何が悪かったんだろう」と考える。もう一つは、子育て支援をするにあたって、関わる地域の方は60歳以上の方が多いです。若いお母さん達が来られた時に、「子どもがこういう時はこうしたらいいよ」とお話ししても「今の子育ての方法は違う。これは受け入れられない。逆にこんなことをしてはダメ」と言われるから引いてしまう。私達はどのように声掛けをしていけばよいかと悩んでいます。専門の先生方がやってくださると、そのまま受け入れてくれるのかもわかりませんが、私達は、地域で子どもを育ててそこでお世話になったので、「自分達もこうしてやらないと」と自然と身につけているものが、「今はそうじゃなくなってきているのかなあ」と実感しており、難しいところです。

このアンケートにもあるように、「雨の日に遊べる場所」は、0歳～2歳はすごく限られてきます。今の場所だと市関係のオアシス、ほっとステーションで充分間に合っていると思います。「屋外で」というのはどういうことを望まれているのか。公園が少なくなっているのは現実で、保育所でゆうゆう広場等は園庭開放されている。とはいってもその人数は減ってきているので、希望があるわりには集まってこないというのが一つ。あと、廃園になった幼稚園の跡地がどうなっていくのか。教室もある、遊具もある、それを

う少し利用して、施設をいつまでも置いておくのではなくて、もっと使える場として開放していくことができないのか。一市民の望みとしても、廃園になって荒れていく姿を毎日見ているよりは、もっと上手に施設を使う方法があるのではないかと市に要望したいと思います。

「もうやめたらいいやん」という声も、実際に地域では上がってきています。「やったって意味ないんじゃない」と言われるけれども、細々とでも来てくれる人がいる限りはやっていくべきではないかという声も半々です。これを踏まえて、私達は今、民生児童委員をさせてもらっていますが、相談も減ってきているし、たぶん周知もされていないと思います。近所の方との交流があればそういうのもあったであろうけれども、まだ、わざわざ「私がこういうことをしているから来てください」ということもないので相談も減ってきているのかなあとと思います。それが私達の活動の課題だと思います。

【谷向会長】

今まで、未就園児といったら3歳未満、年少さんよりも小さいお子さんのことでしたけれども、未就園が0歳に変わってきたということかもしれませんね。

【西委員】

地域での子育て支援は0歳に近くなってきています。

【谷向会長】

数年前にほっとステーションができた時は、柏原市は利用率がすごく高かったと思うけれども、それはあの時のニーズだったわけですね。今のニーズをまた新たに探っていくかといけないということですね。

【藤井委員】

子どもの数が減っていった中でよけい多様化しているような雰囲気もありますね。民生委員をさせてもらっていますが、いろいろな方がいらっしゃいます。しつけは保育園任せで「預ければみんな教えてくれる」という人もいれば、積極的に園の行事や地域行事に参加する人もいます。選択肢があり過ぎてバラバラになってきています。

【田中委員】

このデータから、また、仕事の内容からお話があるのですけれども、今の母親は、子育てを委託して仕事に出ないといけないような家庭環境や経済的なことが昔より増えて来た。時代が変わってスマホの時代になって、「子どもが泣いていてもスマホを触っている」ということも耳にするんですけれども、僕は、母親はやっぱり子育てということを第一に思っていると思うので、そういう形をもっと推奨していくのか、預けることを優先に考えていくのか、そのところは基本的に国や市の施策がどこにあるのか。今は労働者不足の問題もあります。今産んでいただいても働くのは20年先のことになるからすぐには効きませんが、ただ、今からやっていかないとますますこの傾向は進んでいって、日本人の人数は減ってくる。外国人が周りに多数おられるということになってくる。そのところを私はいつもジレンマに思っています。そのことを我々が言ってもなかなか届かない。

柏原市としてどんな方向に動くかというのは、あとから聞かせていただくかもしれませんが、調査をデータだけで置いておくとデータが泣いてしまいます。私は柏原市の歩み方に期待していきたい。そして、このデータにはお母さんの嘆きが含まれているような気がしています。

先ほど「相談相手は保育所や幼稚園の先生だ」というのは、時間が迎えに行った時しかないから、そこで相談して、或いはお医者さんに相談する。保育所に迎えに行くと、連れて帰ってすぐに夕飯にしようと思って帰りにスーパーに寄って帰るとい生活だと思えます。国や府がしてくれないのであれば柏原市としてどうしてあげたらいいのか。小学校も地域も「こんなことをしたらどうか」と市政だよりに載せるとか「こんな方向はあるんだけどどうか。一度リビエールホールの1階でもこんなのをやってみたらどうか」とか。

最近若い世帯の皆さんが行かれているのはホームセンターに行くかショッピングセンター。奈良のほうへ行ったり八尾のほうへ行ったり、空港のほうへ行ったり。雨が降ったらそちらへ行かれるということです。雨の日も何か「こんなことをするけれども、施設はどうか」というように、何か前へ進んでいく方法はないのかなあと。声をかけてみないともものは動かないし、若い人は来ないような気がします。

柏原市には、大和川というよそにはないものがあるのだから、何か使える方法があるのではないかと。若い人が堤防へ行ったら「花も咲いているし、つくしも咲いていいなあ」というような。

【柴田委員】

私は3歳から小学校5年生の子ども4人を育てています。今までは仕事をせずに子育て支援を利用して

ました。最初は仕事をせずに子どもと向き合って長い時間を過ごしたいという気持ちがあつてずっと利用していましたが、年数が経つと働かなければいけない状況になって、一番下の子を保育所に入れて働き始めました。その時、ほんとうの気持ちとしては、支援施設に子どもを連れて行って一緒に遊びたいと思っていたのですが、家庭の事情で働かなければいけないという理想と現実の違いがあり、柏原市の保育園に預けました。

保育園に預けたとしても病児保育をやっているところは少ないと思います。働きたくて保育園に預けたい。ほんとうは働きたいけれども働けないお母さん達はたくさんいらっしゃると思います。求職活動で「子どもが病気になったらどうしますか」と言われた時に、次の手が打てないので、そういうところも柏原市でサポートしていただけたら。働きたい方に関しては、ニーズが合あると思います。

また、今は1年生の子どもを学童に入れています。上の5年生・4年生の子は入れていないのですが、学童よりも、もっとライトな感じで誰でも遊びに行っていような場所があればいいですね。親の目からみれば、学童に預けるほどではないけれども、もし誰でも行っていい場所があれば安心して「あそこだったら遊びに行っておいで」と言えるのかなあとと思います。そういうことができればニーズと合ってくるのではないかという気がします。誰でも簡単に遊ぶなり交流なりする場所を作っていただけたら親としてはありがたいと思います。

【谷向会長】

子どもがかかわってもらえる大人がどれぐらいいるかを考えた時に、0歳でも1歳でも2歳でも、或いは小学生でも確実に減っていると思います。でも、それはとても大切なことだと思います。質の充実がこの会議の目指すところではないかと思っています。

【西委員】

お預かりしたいのですが、ケガのことだったり、来所する途中での事故の保険とかの問題が出てきます。小さい子から大きい子まで、ほんとうは小学生にも「来てもいいよ」と言いたいのですが、もし小さい子に何かあった時に、親の目がなかった時に、誰が責任を持つのか。そういうのはものすごく敏感に。それって普通は親御さんの責任なんですけれども、ちょっと目を離していると、他の目もあるのに「え？」と言われるんです。私は、学校の校庭などで子ども達が放課後2時間ぐらいワーツと遊んでいる姿が見たいのですが、とにかくケガとかがあるので。放課後子ども教室もしていますが、「こんなことがしたい」と言うと、食べ物に対しては「衛生面でダメ」、「映画を放映したい」と言うと「著作権が」と阻まれていく。今までスツとできていたことができなくなってきて、ちょっと大変だなと。学校の安全安心な場所を開放して遊ばせてあげたい。だけどそういったことに関してどこまでも責任は持てないので「そこをよろしく」と言いたいです。親御さんにもわかってもらいたい。でもクレームがあると「ダメ」となるんです。やりたい気持ちはいっぱいありますが、難しいです。

【柴田委員】

どこかに預けた時に、子どもがケガをすると先生がすごく謝られるのですが、私は先生が謝ることではないと思います。でも、そういう方ばかりではないのですごく難しいだろうと思います。

私たちも保護者会で何かする時に「アレルギーがどうだ」とか言われると、ほんとうにやれることが少なくなっているのです。

【二葉委員】

今回のこのアンケートを何らかの形で市民の人達に知っていただく。特に福祉行政の担当者の方は、最前線で動かなければいけないと思います。せっかくとったアンケートを有効に使っていこうと思うと、市民に知ってもらって、特に関心があつてアンケートに答えている人にはフォローしないといけないと思う。そのためには、柏原市の担当の事務局の方が、まずアンケートに答えて下さった人にきちっとフォローする、返していく。アンケートの結果を見て、こういう人がいるというのを広めていく。市の広報を通じて広める方法を考えていかなければいけないと思います。

子どもの福祉行政の第一歩というのは、現実を市民に知らせること。特に母親でがんばって働いて子育てをしている人達に届けて、きちんと関心をもって市も周りも見ていくという、やっぱりある程度支援もしていけないと、今回のアンケートがもったいないと思いますので、更にお願ひしたいと思います。今回のように話すことがスタートだと思います。最初は違う意見があるけれども、ある程度意見を調整する。今はそれを避けて家族だけでやるから「年寄りが意見を出したりしはる」と疎外してしまう、今のような実態が出ていると思います。それは、これからの努力によって解決すると思います。事務局に頑張っていただきたい。

【谷向会長】

機運を盛り上げることはすごく大切ですね。

【事務局】

－小学生の結果紹介（資料に基づき説明）－

【谷向会長】

今の報告を踏まえてご意見をお願いします。

【住本委員】

やむを得ず働かないといけない環境だというようなところは労働環境の整備などの話に繋がっていると思います。今回労働組合の代表としては、そのあたりのことを考えて、制度としていくことでいろいろな問題解決に繋がっていくのではないかと思います。けっこうそれが影響することが大きいのではないかと個人的には思います。

【谷向会長】

5年前から比べて急増しているということは、求められているということだと思いました。

【小松副会長】

個別な内容というよりは調査自体の確認をしたいのですが、最初のページに、「どこに住んでいますか」とか、「子どもの人数」とか「末子の年齢」というところがあります。たまたまかもしれないのですが、国分小学校が増えて玉手小学校が減っている。国分小学校については倍以上になっています。この結果について、おわかりのことがあれば。また、子どもの人数で「1人」は、前回20%以上いましたが今回は6%。それに関連して、末子の年齢で、5歳以下の割合が増えているのですが、これは何か理由があつてのことなのか。たまたまというには、この末子の増え方は大きいと思います。だから「一人っ子です」「この調査に回答したお子さんだけです」というのではないご家庭が大幅に増えているのですが、この辺について何か事情や背景などがわかれば教えてください。

【事務局】

事情まではわかりません。今回アンケートを送った方は無作為ですので、たまたまなのかもしれません。結果としてこういう数字が出たとしかわかりません。

【小松副会長】

就学前のお子さんがいると、家族の構成とか気になることもだいぶ違うと思うので。おわかりにならないということであれば仕方ないのですが、結果を見ていく時や分析される時に留意していただいた方がいいかと思えます。

【谷向会長】

学校の在校生の数などは変わらないですか。

【事務局】

地区には関係なく無作為に抽出しているので、偏りが出ているのかもしれないですね。

【西委員】

堅下北小は3分の2ぐらいに減っていますね。

【小松副会長】

これは、純粋に郵送で返ってきているもので、集め方とか回収の仕方を工夫したから増えているという問題ではないですね。校区のことや年齢のことはさしおいて、一人っ子が大幅に減ったというのは、出生数が増えているわけでもないですね。

【事務局】

増えているわけではないです。

【西委員】

ただ、家族構成のところで母子家庭が上がっています。全体的にここはあっていますか。

【事務局】

無作為ですが、前回はかなり少ないというのがあります。平成28年度に大阪府と柏原市でやった「子どもの生活に関する実態調査」では、柏原市の調査（50世帯）で母子世帯が12.8%、父子世帯が1.5%、二人親世帯が85.5%。これは小学校5年生と中学2年生を対象にした調査ですが、そのような数値が出ています。今回は一人親の方が6.6%ですね。その調査よりも今回もまだ少ない。前回はもっと少なかったみたいになっています。今回の調査が特に多かったというわけでもない今のところは判断しています。

他の話でも、大体6~8%ぐらいの数値ではないかと聞いております。前回はかなり少なかったのですが、6%が多いということではなさそうです。サンプルで選んでおり、どうしても分母が少ないところもありますので若干数字が変動してしまうこともあります。

【藤井委員】

今後施策を考えていくうえで、この数字については実数でないと検討できない。あくまでアンケートの結果としてみるべきです。1年生が何人いて、2年生が何人いてという実数のデータがあれば、具体的な案が出るのではないかと思います。

【事務局】

今回のアンケートの結果を使って量の見込みを算出します。前回は同じような計算式ですが、そこにあてはめてニーズ量を出していきます。量の見込みでは、一旦数字は出していますが、ここから元の柏原市の実際の数字を見ながら調整することになると思います。

【谷向会長】

では次の説明をお願いします。

(2) 教育・保育、地域子ども・子育て支援事業の量の見込みの算出結果について

【事務局】

最初は算出の方法について説明があります。4ページは、住民基本台帳をもとに、今の実績と今後の推計人口を出しています。この推計人口をもとに今回のアンケート結果の現在の家族タイプの比率を出しました。アンケートの希望等を加味した形で、潜在的な家族タイプを出しております。この潜在的な家族タイプからそれぞれの家族の推計される児童数等を出しました。あとはアンケートの結果から利用意向を算出し、それをもとに見込まれるニーズ量を算出しました。国等から出されたシートにあてはめると出るという形になっています。

6ページと7ページは、どちらも量の見込みの算出の結果になっているのですが、6ページのほうは、「認定こども園の幼稚園部分」の方も「認定こども園の幼稚園部分と預かり保育の方」も、「認定こどもの保育所部分」としてすべてを「認定こども園」として中に入れて数字を出した形として計算した結果となっています。7ページのほうは「認定こども園の幼稚園部分」「認定こども園の幼稚園部分と預かり保育」を「幼稚園」「幼稚園と幼稚園プラス幼稚園の預かり保育」として数値を出した。「保育所部分」は「保育所」と算出した結果で出した分になりますので、実際の形でいくと、7ページのほうが実際のニーズに合った形の集計なのかなあとしますので、7ページの量の見込みをもととして考えていきたいと思っています。

前回の時もそうだったのですが、暫定で出た量の見込みから実際の柏原市の現状等に合わせて補正をして、計画に掲載したという形になっていますので、今回も、今までの計画について推移等を見ながら今回の量の見込み等を捉えて次の第2次の5年分の計画値を算出していきたいと考えておりますので、よろしくお願いたします。

【谷向会長】

少し難しい。

【事務局】

ほんとうにこれはアンケート結果と人口推計をもとに出した数字になっています。

【谷向会長】

6 ページと 7 ページの違いは。

【事務局】

認定こども園をまとめて保育ニーズに入れた場合と、7 ページは教育と保育のニーズを分けて算出するかの違いで、実際的には7 ページになるのかなあというところになります。

【谷向会長】

柏原市の場合、こども園は関西女子短期大学の幼稚園から発展したという経緯があるので、7 ページのほうがより合っているという理解でよいでしょうか。

【田中委員】

小学校でも土曜日の預かりのことを言っていますが、土曜日は、学童はあるのですか。

【事務局】

あります。

【田中委員】

今は何時から何時までで、費用はどのくらいでやっているのですか。土曜日はどこもみんなあるのですか。なぜアンケートでこれをとっているのですか。費用の問題ですか。土曜日は何時から何時までやっているのですか。

【事務局】

今は8時30分から18時30分までです。

【田中委員】

保護者のニーズに合っていますよね。

【事務局】

その辺も含めて後でご説明させていただきます。

【谷向会長】

3 番目の案件ですよね。

【藤井委員】

5 年前のアンケートから算出した見込みは大体当たっていたのですか。

【事務局】

最初に出した見込みから現状に合わせて数値は補正しています。例えば、2号保育は前回出した量の見込みでは平成30年度は534と出ていたのを778に補正しています。実績値が807となっているので、量の見込みよりも補正した数字の方が現状に即しています。ただ、推移の仕方を量の見込みから測って行って下がり幅とか上がり幅があれば、今回のニーズ調査の数値を基にした方が分かりやすいかと思います。

アンケートの結果は、項目によって高めに出たり低めに出たりします。これをもとに、例えば、保育所はあとどれだけ整備していったらいいとか、幼稚園はこれだけにしていったらいいとか、最終的にその計画を作るのですが、「ないよりあったほうがいいよね」というような〇のつけ方もあるので、どうしても高めに出たりする。ただ、あまり過剰に供給量を増やすことで民間の保育園が子どもの取り合いになるというような状況が起きないように、実際に合わせてニーズ量を低めに見積もります。「もうちょっと利用実績がある」というところは項目に合わせて。

【藤井委員】

信頼度はどうですか。もともと答えている親や家族構成はバラバラですから。その辺はどのくらいの幅で考えておいたらいいでしょうか。

【事務局】

スタートは実際の数をもとにして、アンケート結果を参考にして予想される数字をまず出す。今までの流

れからの数字と共に社会情勢も見ないといけないし、結果も参考にしながら推移と充てていく形になるだろうと思います。

【藤井委員】

平成30年度はプラスマイナスの幅がどのくらいかあるのか。

【事務局】

「あったほうがいい」と思う方のニーズが高くなっていくので、数値的には上がりにくくなると思います。家族構成にもよるなど、その辺の計算も間に入ってきますので、今回これを見て作っていかねばいけないと思っています。またご意見等をいただきながら作成したいと思いますので、よろしくお願いたします。

(3) 放課後児童会の時間延長について

【事務局】

放課後児童会について、当日資料の説明を行います。

柏原市の児童会は、保護者が就労等の理由で昼間ご家庭にいないことができない1年生から6年生のご家庭を対象に各小学校で放課後児童会を運営しています。現行制度では、開会時間は、平日は月曜から金曜日は授業の終了後から午後5時までが通常です。5時に子どもみんなで学校から徒歩で帰っていただく。それ以上預かって欲しいという場合は、5時から6時30分まで、1回150円で延長というサービスを行っており、この場合はお迎えを条件に預らせていただいています。土曜日と夏休み、冬休み、春休みの長期休業中は、朝8時30分から5時までが通常の開会で、5時以降が延長サービスです。保護者の負担金は、月～金の通回で5,000円、月～土の通回で6,000円、保護者の方からいただいています。

開会時間については、かねてから保護者の皆様から時間拡大の要望がありました。これを受けて我々も全保護者を対象にアンケートを実施したところ、約半数の保護者の方から「長期休業中や土曜日の朝の開会時間を早めてほしい」との要望が高かったことから、市としてもこのニーズに応えることができるように、これまで指導員の確保やコスト面などさまざまな課題について検討し、準備を重ねてきました。

この度、朝の開会時間を早めるということで、土曜日と長期休業中の朝の開会時間を8時からとするところで動いております。放課後児童会の開会時間というのは市の条例に書いてあり、条例の改訂が必要です。条例の改訂には議会の承認が要りますが、ちょうど今、3月議会で審議中ですので、審議が通れば8時からの開会ができるということになります。保護者負担金はそのまま据え置きで8時からということで今、動いております。「このニーズに合っているのではないか」というお話については、どうしても平日の学校は8時30分よりも前に開けるので、保護者の方の要望としては、「平日に家を送り出すぐらいの時間に、夏休みや冬休みも土曜日を送り出せたら」というのが一番あると思うので、そういう要望は当然だろうというのはあり、進めてきました。今年7月1日からできるように準備を進めているところです。

【田中委員】

嬉しいです。ちょっと他のことでお聞きしたいのですが、今年は10連休がありますが、働いている人が「途中預かってほしい」というのがテレビでも報道されていたのですが、八尾市で保育所に預けている方に「預かってもらえるの」と聞くと「八尾市は無理です」と言われたのですが、そこをお聞きしたいです。長期の休み、例えばお盆はどうなっていますか。

【事務局】

お盆休みはあります。

【田中委員】

その辺のところを書いておかないと誤解を招いたりします。そういうところがこれから増えてきます。だけど、市のお金を出されているのか、保護者は負担金がこの金額だと使いやすいですね。保護者にとってこの金額はどうなんですか。

【事務局】

昔は無料で学童保育を行っていた時代があって、平成16年から有料化になっているのですが、その時から値段は据え置きで変わっていません。

【西委員】

何年か前から4年生以上も使えるということに変わったと思いますが、4・5・6年生に使われているのは全体のどれくらいの割合ですか。

【事務局】

平成30年度でいうと、全体では793人ですが、4・5・6年生は合わせて大体200人ぐらいですね。

【西委員】

それは年々増えているのですか。

【事務局】

平成27年度から始まりましたが、この時は4・5・6年生を合わせて大体70人ぐらいでした。それが徐々に増えていっています。3年生からそのまま続けている方がいるので。

【西委員】

兄弟関係とか。

【事務局】

そうですね。下の子が入ってこられると。

【西委員】

上の子が辞めるのではなくてそのまま。

【田中委員】

うちも預かる子どもが増えてきたので、今もほぼ3人体制で25～30人預かっています。特に水曜日は帰りが1時間早い。すると預かる子供も増えるので、長時間になると指導者が疲れるという話も聞きます。

うちは、土曜日はしていないのですが、保育所さんは土曜日は開所していますか。

【藤井委員】

開所しています。

【田中委員】

今は1号を受けている人はありますか。

【藤井委員】

受けていません。

【田中委員】

学童の人は契約の人だけですよね。これは就労されている人ですよね。

【藤井委員】

主に就労されている人です。

【田中委員】

一時預かりはないですよね。

【藤井委員】

それはないです。

【田中委員】

この文章の中に「一時預かりしてほしい」という文章もありましたよね。

【藤井委員】

あれは就学前。

【田中委員】

小学校の一時預かりはない。就学前の一時預かりの希望がありましたね。これは、対応はあるんですか。

【事務局】

それは、保育所で一時預かりというのをやっている。

【田中委員】

就学前の2号ではなくて一時的な1号の人も預かっていただく。そちらのほうで面倒をみていただいている。

【藤井委員】

そうです。リフレッシュや冠婚葬祭などでどこかに行かなければいけない時に。

【田中委員】

うちも親から要望は受けているのですが、今は組み込んでいないんです。

【柴田委員】

先ほどの放課後児童会開会時間拡大の件について。3月の議会で審議中のことですが、これはもう何割がた決まっているのですか。

【事務局】

99%大丈夫だと思います。議会からの要望を受けていますので、反対する要素はないと思います。

【柴田委員】

中では話が回っているので、どこまで進んでいるかと思ったので。7月1日からじゃないと無理ということですよ。

【事務局】

やっぱり指導員さんの体制の期間があるので、夏休みからと思ったのですが。

【藤井委員】

他の市はどうですか。

【事務局】

まちまちですね。でも8時からやっているところはまだ少ない。

【田中委員】

一時預かりの時間は何時からですか。

【藤井委員】

9時から5時です。午前中だけの人もいます。給食を食べずに帰る子もいます。

【田中委員】

子どもが9時から5時まで行くと費用はいくらいるんですか。

【藤井委員】

最高で1日3,000円。そのことを思うと全然安い。

【西委員】

預かりもいろいろ多様化しているということです。

【田中委員】

差がつき過ぎている。

【西委員】

使われているのは、月～金よりもほとんど月～土でしたか。

【事務局】

月～金の方が多いと思います。月～土で利用する場合は、月～土の就労証明書が必要になります。

【西委員】

じゃあ、土曜日がお休みの方は「家庭でちゃんと子どもをみよう」という感じなんですね。

【田中委員】

親支援で考えたら、ここで3,000円を半額にするという話（一時預かりの費用削減の話）はできないですか。何とかならないですか。

【柴田委員】

個人的な意見ですが、うちも本当は兄弟で入れたいんですけど、兄弟が多くなったら5,000円、5,000円と負担が大きくなるので、上の子は預けられません。

【事務局】

1人目が5,000円で2人目、3人目に同時に入っていただくと半額になります。

【柴田委員】

柏原市はお仕事の時給が他の市に比べて低いという話を聞くと「それはあり得ない」という気持ちにもなるんですけども。

4年生は授業が終わるのが3時45分なので、4時から5時まで1時間5,000円を毎月払って、それプラス毎月おやつ代がかかると「何のために働いているのか」ということになります。

【西委員】

小学校の英語教育が始まると毎日6時間授業になると聞きました。今は水曜日にのびのびルームを入れています。今後はそれができなくなります。4時から5時で子どもの集中力は保たれるのかなどいろいろ課題があるので、それよりも身体を使って運動場で1時間遊ばせて5時に帰らせたほうがよいのではないかと思います。学童もこれからは1時間だけだと思うので、学童に行くことのメリットがあるのかと考えます。1年生でも6時間になるという話も聞くので、土曜日が休みになった分、平日へのしわ寄せが大変です。子どもも先生も大変だと思います。勉強だけではなくもっとゆとりがあればいいのにと 생각합니다。今は、のびのびルームを入れることに関してもその日に設定しようかと。もっと増やしてあげたいけれども勉強も大切なので、逆にできなくなってきました。1・2年生は少しゆとりがありますが、3年生からはガチガチに授業が入ってくるみたいです。遊びで来る子は、それをめいっぱい使ってしまうと宿題をする時間がなくなる。「こっちにいたから宿題ができなかった」となるからそれは家庭でしっかりさせてほしいと思うんですけども、どっちを取るかですよ。家庭のニーズもいろいろですが、いっぱいあり過ぎてどれを選んだらよいのか。してあげたくてもしてあげられないこともあります。

【田中委員】

土曜日の一時預かりは、未就学児のデータを取られたことはありますか。

【藤井委員】

うちのところでは、職員が手当てできないんですよ。ほぼゼロです。

【田中委員】

給与分が出ないからですね。

【藤井委員】

うちが「土曜日はできません」と公言しているので。

【田中委員】

そしたらここへ頼むという方法があるかもしれない。大変だというなら「こちらのほうでできませんか」

というのがあるかも知りませんね。

【西委員】

昔は地域で子ども会がありましたよね。今はどんどんなくなっていったほとんどない。その代わり校区で子ども会を作られました。各地域で出来ない代わりに、例えば堅下北小校区では、小学校の子は子ども会に入ると子ども会の行事に参加できます。だけど、残念ながらゼロなんだそうです。今年は、子ども会担当の方が会議の時に、「ぜひに」と校区の子ども会に入ることを勧めてくださった。そうしたら土曜日でもいろいろな子ども会の行事に出られるそうです。いろいろされているのですがなかなか。どこも困っておられましたね。

【谷向会長】

子ども会をうまく利用できるのかと一瞬期待を持ちましたけど、ゼロなんですか。

【西委員】

「来年度はよろしく願います」とお話されていました。

【谷向会長】

情報を伝えていくことはとても大切だと思いますので、その辺は市のほうから。

【田中委員】

子ども会に入ったら役員をしなければいけないのでみんな嫌がっておられる。

【西委員】

校区だったらなくていいんです。ずっとお世話して下さる方がいらっしやる。

【谷向会長】

逆に世代を超えて協力しやすくなりますね。

【田中委員】

その時は保険もかけないといけないですよ。

【西委員】

もちろん保険はかけます。

【田中委員】

保険料は誰がかけるのですか。

【事務局】

基本的には、子ども会の会員さんから集めます。市で、一括で加入してもらっています。

【谷向会長】

案件は以上です。

(4) 連絡事項

【事務局】

また計画策定に向けて、第16回の子ども・子育て会議を実施していただく必要がございます。次回、ゴールデンウィーク明けぐらいに予定しております。また、日等が決まりましたらご連絡させていただきます。よろしくお願いいたします。

5. 閉会

【小松副会長】

(閉会あいさつ)